

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	4-3-2	事業名	「顔の見える農業」推進事業	
担当	経済局農政部農業支援センター 佐藤禎治 787-2220			
全体計画				
事業内容	札幌で生産された新鮮・安心・良質な農畜産物のブランドである「さっぽろとれたてっこ」事業に取り組み、人と環境にやさしい農業および地産地消を推進する。 土づくりを基本とし、化学農薬をできるだけ減らす技術を取り入れるなど、独自基準に基づく認証制度を実施する。 「さっぽろとれたてっこ」の表示・販売を通じて生産者と消費者、さらには流通関係者の相互理解と信頼関係をつくり、お互いが満足できるシステム構築を図る。 「さっぽろとれたてっこ」ブランドを牽引する魅力的な農産物の開発や「さっぽろとれたてっこ」農産物を使用した加工品の支援を行い、札幌産農産物の消費拡大を目指す。 「さっぽろとれたてっこ」生産者と消費者の交流を支援し、活発化させることにより、地産地消を支援する市民を増やす。 地産地消普及・拡大により、食育の推進やフードマイレージの減少に寄与する。		<p style="text-align: center;">&lt;年度別の事業内容&gt;</p> 「さっぽろとれたてっこ」認証制度の運用及びPR ・H19～20農家認証参加促進 140戸目標 ・H20～22協力店の増加拡大 60店目標 地産地消を基本とした地元農産物の流通、消費拡大の推進 ・H19～22農産物イベントへ積極的に参加、出前講座・健康フェア等を活用しての対市民PR 消費者や実需者のニーズにあった魅力的なブランド農産物の生産普及 ・夏採りアスパラガス、イチゴ高設栽培、タマネギ「さつおう」の生産普及 H19～20新技術確立 H20～22生産農家拡大、市民へのPR、スイーツ等加工品への利用促進	
	事業内容	平成19年度事業内容(決算)	平成20年度事業内容(決算)	
量	「さっぽろとれたてっこ」認証制度の運用開始 ・認証委員会2回実施 ・認証書類作成 ・認証制度紹介ポスター・リーフレット等PR資材の作成 ・とれたてっこPRパンフレット・旗作成 ・消費者現地見学会1回実施 1,468千円  地産地消を基本とした地元農産物の流通、消費拡大の推進 ・リンケージアップフェスタ、コープ食育イベント等参加 310千円  消費者や実需者のニーズにあった魅力的な農産物の生産普及 ・夏採りアスパラガスの生産普及 アスパラ研究会2回実施 ・イチゴの高設栽培の生産普及 イチゴ農家見学会1回実施 ・改良札幌黄「さつおう」(新品種タマネギ)の生産普及 試験栽培用の種子等購入(試作栽培) 775千円  (決算額: 2,553千円)	「さっぽろとれたてっこ」認証制度の運用 ・認証委員会1回実施 ・認証書類等作成 ・とれたてっこPR用パンフレット・シール等作成 ・消費者現地見学会1回実施 1,568千円  地産地消を基本とした地元農産物の流通、消費拡大の推進 ・さっぽろオータムフェスト、コープ食育イベント等参加 610千円  消費者や実需者のニーズにあった魅力的な農産物の生産普及 ・夏採りアスパラガスの生産普及 アスパラ研究会2回実施 ・イチゴの高設栽培の生産普及 ・改良札幌黄「さつおう」の生産普及 PRイベント実施 328千円  (決算額: 2,506千円)		
場	平成21年度事業内容(予算)	平成22年度事業内容(予算)		
規模	「さっぽろとれたてっこ」認証制度の運用 ・認証委員会2回実施 ・認証書類等作成 ・とれたてっこPR用パンフレット・シール等作成 ・消費者現地見学会1回実施 930千円  地産地消を基本とした地元農産物の流通、消費拡大の推進 ・さっぽろオータムフェスト、コープ食育イベント等参加 ・さっぽろとれたてっこ協力店に関わる情報提供の充実 690千円  消費者や実需者のニーズにあった魅力的な農産物の生産普及 ・夏採りアスパラガスの生産普及 アスパラ研究会2回実施 ・調理用トマトの生産普及 トマト農家見学会1回実施 ・改良札幌黄「さつおう」の生産普及 PRパンフレット・パネル作成・PRイベント実施 1,525千円  (予算額: 3,145千円)			
件数等				

## 平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2)

計画体系コード	4-3-2			事業名	「顔の見える農業」推進事業		
<b>達成目標の状況</b>							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
さっぽろとれたてっこ認証取得農家数	100戸	130戸	140戸	140戸	140戸	140戸	
さっぽろとれたてっこ協力店舗数	30店舗	21店舗	35店舗	45店舗	60店舗	60店舗	
<b>市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)</b>							
<p>市民との連携、市民参加 札幌消費者協会も参画しての認証制度により、市民参加の農産物ブランドとして位置づけられた。 さっぽろオータムフェスト、コープ食育イベント、健康フェア等の市民イベントへの積極的参加。出前講座の活用。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] { JAさっぽろとは、全体計画、認証制度の運用及び販売面において連携・協働している。またイベント時の [人材協力] 人材協力も適宜行なっている。 [情報協力] 製菓・製麺・漬物・飲食店業界とは緊密に連携し、新加工品等の開発において連携・協働している。 [その他の協力]</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり 「さっぽろとれたてっこ」認証制度を平成19年度より運用しており、市民に対して、安全・安心で新鮮な地元農産物を供給している。札幌消費者協会も参画しての認証制度であり、市民参加の農産物ブランドとして位置づけられつつあるが、より一層の身近な存在となるべく、加工品目や協力店の増加拡大を目指す。</p>							
<b>評価(成果)</b>			<b>課題</b>				
<p>「さっぽろとれたてっこ」認証制度を19年度より運用し、認証基準に基づく安全・安心で、新鮮な地元農産物を市民に供給する体制が整った。認証制度の普及定着を重点的に行なった結果、20年度中に目標である140戸の生産者が認証された。 札幌消費者協会も参画しての認証制度により、市民参加の農産物ブランドとして位置づけが、進められた。 本市伝統のタマネギ「札幌黄」を改良した新品種「さつおう」を開発し、試作販売をしたところ好評を博し、またタマネギ加工品の新規開発を進めている。 スイーツ店との連携により「イチゴフェア」などのイベントを開催することで、市民に札幌産農産物をPRした。</p>			<p>協力店の拡大等「さっぽろとれたてっこ」農産物の安定供給体制の確立。 市民への制度周知と、生産物の品質向上・多品目化による魅力アップ。 消費者の地産地消に対する理解形成。</p>				
<b>今後の事業の予定・方向</b>							
<p>「さっぽろとれたてっこ」認証制度を核とした認証農畜産物・加工品販売促進PRの実施及び他事業との連携による取扱量及び取扱い店舗数の増加を図る。また、さっぽろとれたてっこ協力店の取組内容(販売品目、販売期間等)が市民へ容易に情報提供できるよう市民サービスの向上を図るとともに、地産地消を推進するため「さっぽろとれたてっこ」であることを積極的にPRするよう支援する。 魅力的な農産物の開発や栽培法の確立と生産普及を行い、「さっぽろとれたてっこ」のイメージアップを図る。 消費者への地産地消に対する、さらなる啓発手法の検討を行なう。</p>							

## 平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

計画体系コード		4-3-2		事業名	「顔の見える農業」推進事業		
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	3,495	3,170	3,170	3,165	13,000	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0	0	0	0	
	市の債	0	0	0	0	0	
	その他の他	0	0	0	0	0	
一般財源	3,495	3,170	3,170	3,165	13,000		
予算	事業費	3,495	3,495	3,145	-	10,135	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0	0		0	
	市の債	0	0	0		0	
	その他の他	0	0	0		0	
一般財源	3,495	3,495	3,145		10,135		
実績	事業費	2,553	2,506	-	-	5,059	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0			0	
	市の債	0	0			0	
	その他の他	0	0			0	
一般財源	2,553	2,506			5,059		
事業費の進捗率		(H19実績事業費 + H20実績事業費 + H21予算事業費) / (計画事業費)				63.1%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度]							
[20年度]							
[21年度]							